

Kyoto Prefecture Hospital Association News

第30号

2026年7月

京都府病院協会ニュース

《発行所》一般社団法人 京都府病院協会 《発行人》水野 敏 樹 〒604-8585 京都市中京区西ノ京東桐尾町6 京都府医師会館内
TEL 075-354-6120 FAX 075-354-6074 <http://www.fubyokyo.kyoto.med.or.jp/>



京都府病院協会では、6月2日(火)にホテル日航プリンス京都において令和8年度定時総会を開催しました。

当日は、会員病院から27名が出席(委任状は21通)し、令和8年度事業計画・予算について報告するとともに、令和7年度事業報告・決算、令和8年度通常会費ならびに理事の選任について4議案を上程しました。いずれの議案も賛成多数で可決承認されました。

冒頭、水野会長は、令和8年度診療報酬改定について30年ぶりに3%を超えるプラス改定が実現したこと、にふれ、物価高騰や人件費の上昇に配慮がなされたことに一

令和8年度定時総会を開催

定の評価を示す一方で、その効果が現場に確実に反映されるよう注視しながら、引き続き会員病院にとつて有益となる活動を継続していく考えを示しました。

また、生産年齢人口の減少に伴う人材不足は今後さらに深刻化することが予想され、医療資源の効率的な活用や遠隔診療の推進に加え、DXやAIの活用が重要な課題となっているが、電子カルテの更新をはじめとするIT関連費用が病院経営に大きな負担となっていると指摘し、各病院単独では解決できない課題が増えていることから、全国各地で医療情報を共有するネットワークを進めていくに当たり、その連携などについては社会的なインフラとして支える仕組みづくりの必要性を訴えました。

■令和7年度事業報告および決算を承認

第1号議案として上程された事業報告については、水野会長より総括報告の後、新春講演会、表彰関係、勤務環境改善総合支援事業の実施状況などを報告し、可決されました。

また、第2号議案として上程された決算については、尼川会計担



当理事より説明の後、辰巳監事から監査報告が行われて、採決に入り、可決されました。

■令和8年度の通常会費を承認

第3号議案として上程された通常会費の徴収については、水野会長より、今年度も経費削減に努めながら、これまで同様に、会員病院への支援につながる取り組みを進め、積極的に事業を展開していくために、前年に引き続いて、会費を昨年と同額の10万円とすることを提案し、賛成多数で可決されました。

令和8年度定時総会議案

- <報告> 1. 令和8年度一般社団法人京都府病院協会事業計画について
2. 令和8年度一般社団法人京都府病院協会予算について

- <議事> 第1号議案 令和7年度一般社団法人京都府病院協会 事業報告に関し承認を求める件
第2号議案 令和7年度一般社団法人京都府病院協会 決算に関し承認を求める件
第3号議案 令和8年度一般社団法人京都府病院協会 通常会費の徴収に関し承認を求める件
第4号議案 一般社団法人京都府病院協会 理事の選任に関し承認を求める件

第4号議案としては、理事の選任が上程され、川村和之先生(国立病院機構宇多野病院)が新理事として選任されました。

令和8年度事業計画 基本方針

■基本方針

昭和26年4月26日、京都病院長会として発足した当協会は、昭和39年に京都私立病院協会が分離独立した後、昭和41年6月1日に京都府病院協会と名称を改め、さらに平成26年7月には、一般社団法人京都府病院協会として新たなスタートを切りました。法人化後10年余が経過いたしました。会員病院の皆さまのご理解、ご協力のもとに、病院団体としての発信力を強化しつつ、設立から現在に至るまで健全に運営を行ってまいりました。

昨年度も原則として月1回理事会を開催し、多くの重要課題について意見交換を行ってまいりました。令和6年度から開始された医師の働き方改革については、宿日直許可の取得、自己研鑽の定義、看護師特定行為などを含めた多職種間のタスクシフト・シェアなどに関し幅広い議論を行い、多くの病院が精力的にこれらの問題に対処したことが奏功し、当初危惧されていた救急医療や過疎地域の医療提供体制は、幸いにも崩壊の危機を免れたと考えております。

その一方で、生産年齢人口は着実に減少しており、2040年には日本全国でさらに深刻となるこ

とが危惧されております。医療業界は他業種と比べて人件費の伸びが相対的に低いことに加えて、労働環境も厳しいと捉えられる傾向にあることから、必要な医療資源の集約化や遠隔診療の整備などを早急に検討する必要があります。

生産年齢人口の減少に対するもう一つの処方箋はDXやAIの活用です。AIの進化は驚くべきスピードで加速しており、診断過程や医療記録の分野で実装化されつつありますが、病院におけるIT関連費用は年々増嵩しており、電子カルテの定期的な更新ひとつをとっても、病院経営に大きな負担となっております。全国各地で医療情報を共有するネットワークの整備を進めていくにあたっては、その連携を個々の病院に委ねるのではなく、社会的なインフラとして支えるシステムを構築すべきと考えております。

当協会では、医師の働き方改革、医師確保対策(医師の地域偏在・診療科偏在問題)、かかりつけ医療機能報告制度、医療DXの推進・活用など、医療を取り巻く諸課題は密接に関連しあうことから、一体的な対応が必要と考えております。そのような状況の中で、令和8年度診療報酬改定は30年ぶりに

3%を超える本体プラス3.09%で決着しました。

医療機関が直面する物価高騰や人件費の上昇などに対処するため、改定2年目となる令和9年度の経済状況を見据えた対応がなされたほか、急性期医療を担う病院に重点的に配分されるなど、インフレ下において物価高騰や賃金上昇を価格に転嫁できない公定価格で運営されている医療機関に対して一定の配慮がなされました。診療報酬の考え方を根本から見直す契機となる大変重要な改定になったと認識しております。

会員病院の厳しい経営状況が報告されていることを踏まえて、当協会においても、本体プラス改定が着実に現場に反映されるよう見極めるとともに、これからの医療・介護に責任を負う医療者として、この問題に積極的に取り組み、引き続き関係各所に訴えていきたいと考えております。

また、当協会では、令和8年度も多くの役員が京都府の開催する様々な協議会や審議会などに委員として参画し、積極的に発言してまいります。特に、医療現場の実態から乖離するような内容については、制度を誤った方向に導かないよう意見を述べるとともに、これまでと同様に、その経過を逐一理事會に報告することで、役員間の情報共有を図ってまいります。

従前より各医療機関の機能分化や役割分担を明確にすることが求められておりますが、当協会には高度急性期・急性期病院をはじめとする特徴のある病院が多数所属していることから、なお一層それぞれの特色を生かしながら、その地域における役割を明瞭にして貢献していきたいと考えております。

ますます複雑化する医療環境に対して、当協会として、他の医療関係団体や行政と一致団結して直面する課題解決に取り組み、京都府の安定した医療提供体制の構築に努めるとともに、理事会などにおいて重要事項の協議を重ね、設立母体の多様性を越えた前向きな議論を今後も積極的に展開していきたいと考えております。

令和8年度 通常会費について

令和8年度の通常会費については、去る6月2日(火)に開催されました令和8年度定時総会におきまして、以下のとおり承認されましたので、お知らせいたします。

令和8年度 通常会費 **100,000円**

一般社団法人 京都府病院協会 理事・監事

任期：令和8年6月定時総会・令和10年6月定時総会

会長 水野敏樹
(地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター)

副会長 阪上順一
(市立福知山市市民病院)

副会長 川端浩
(国立病院機構 京都医療センター)

理事 尼川龍一
(日本バプテスト病院)

理事 吉岡隆一
(京都府立洛南病院)

理事 尾池文隆
(三菱京都病院)

理事 大辻英吾
(京都第一赤十字病院)

理事 清水恒広
(京都市立病院機構 京都市立病院)

理事 伊藤義人
(京都済生会病院)

理事 魚嶋伸彦
(京都第二赤十字病院)

理事 徳永修
(国立病院機構 南京都病院)

理事 山口明浩
(京都山城総合医療センター)

理事 大久保和俊
(京都桂病院)

理事 川村和之
(国立病院機構 宇多野病院)

監事 辰巳哲也
(京都中部総合医療センター)

監事 若園吉裕
(京都桂病院)